

平成 27 年度

事業所名 : グループホーム シリウス前沢

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500063		
法人名	株式会社シリウスケアサービス		
事業所名	グループホーム シリウス前沢		
所在地	〒029-4209 岩手県奥州市前沢区あすか通四丁目8番地15		
自己評価作成日	平成 28 年 3 月 5 日	評価結果市町村受理日	平成28年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0391500063-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=02">http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0391500063-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=02</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 28 年 3 月 22 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「あたたかい助け合いで笑顔が育ちます」を介護理念に掲げ、利用者様の間でも自然な助け合いが成される雰囲気大切に、そのなかで生まれる自尊心、周囲に必要とされる嬉しさや誇りを重要視しています。同時に個性の尊重を重んじており、画一的な生活ではなく、個々の好みや気分に合わせて生活を送っていただけることを意識し日々の支援をしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新興住宅地の一角にあり多くの地域住民の家々と隣接しているほか、保育園、障害児施設等、コンビニ、大型ショッピングセンターなどが近接しており、生活環境として利便性の高い立地の事業所である。地域とは保育園児との往来交流、秋祭りの地域との共同開催、防災訓練の地域との合同開催などを行っており、年々関わりが広がってきているほか、住民からの地域の灯台としての認識度と信頼感も高まっている。事業所単独での努力では改善しにくい大きな課題として慢性的な職員不足が続いており、法人からの改善案やサポートが望まれるが、一方で現在の職員間における協力意識も高まってきている。苦境にはあるが地域との接点に強みも多く、人と人の信頼感に価値を置きながら、今後地域の子どもから高齢者までの多世代に、より一層の交流を生み出していくことが期待される事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム シリウス前沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	数年前に当時入所していた利用者様の言葉をヒントに「あたたかい助け合いで笑顔が育ちます」という理念を掲げた。日々それが実践できるよう努めている。	玄関先に掲示して、職員それぞれが意識を、高めあうほか、毎日の朝礼時には、職員の倫理(法人)と合わせて理念も唱和合っている。職員間での話し合いにおいても、理念を意識的に伝えている。	新採用を含めて職員の入替え等があった際、あるいは定例的に(年に一度など)、立ち止まって、理念についての方向や目線を合わせる機会を持つてはどうだろうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会員として活動協力をしている。秋祭りを地域と共催でおこなっている。近隣の保育所とも交流がある。	普段は、外気浴や周辺散歩、買い物先で、地域の方と挨拶を交わすほか、敬老会や共催の秋祭り等で来所してくれる地域の方々とも親しく話をしている。今後は、地域の踊りのボランティア等にも声をかけるなど来所を、促したいとしている。	秋祭りの来訪者は30人をこえるなど、近隣とのお付き合いは徐々に拡大している。楽しみや子育てなど高齢者支援に限定することなく、暮らしをわかちあったり素直に助け合ったりできる関係を徐々に築いてほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けて消火器使用訓練を開催。一昨年の避難訓練では地域住民様に利用者様と接していただき認知症の人の理解に繋げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの取り組み状況の報告から様々に話題が広がる中で、今後のホームの取り組みにフィードバックできる案もでてくる。	利用者の状況や事業所の運営状況などを話題として、定期的開催されている。委員から、「秋祭りの地域共同開催」について、提案がなされて実施に至るなど有意義な会議となっている。更に、意見等が出されるよう、努めたいとしている。	とりわけ、保育園児等地域の子供たちとの交流を深めるべく、保育園や小学校の先生を推進会議のメンバー(オブザーバー)にお願いしてみてもいいかもしれない。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には市の担当課長様にも参加いただいている。他、近隣グループホームと合同にて様々な情報をいただけるような機会を得るよう心がけている。	市役所が近いこともあって、必要書類などを持参したりして顔見知りの関係となっている。特に、利用者の状況・待機者などについては、随時、メールやファクス・電話で連絡を取り合うなど、円滑な関係が確保されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上施錠しているが、それ以外の身体拘束は基本的にありえないとし、職員が共通認識を持っている。	身体拘束排除のマニュアルを活用しながら、職員全員で共通の情報を共有し、知識や意識の維持・高揚に努めている。普段から、虐待を含めて身体拘束は絶対に行わない・しないケアについて、職員相互で、注意し合っ、ケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様に、ありえない事柄であるとし職員は勉強会を通じて理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象となる可能性がある利用者様は現時点ではいらっしゃらない。制度の理解を得よう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至るまでの間、不安や疑問点に対しての連絡を取っている。契約時には解約となる場合の条件についても説明し、またその可能性が出てきた際もあらためて説明し、相談をしていただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様が意見、不満、苦情を表出できるよう信頼関係の構築を最優先に取り組んでいる。家族や面会者にも意見が表出しやすいよう、質問箱の設置やケアプラン更新時に意見、質問の記入をお願いしている。	面会や行事等での来所の際に、出される意見等に耳を傾けている。毎月の連絡・手紙には写真も添付するなどして、意見等が出し合える雰囲気づくり関係性の向上に努めている。意見箱も設置しているが、今、出されているものはないとしている。	家族からの意見は、遠慮がちな意識や本人との関係性による部分も大きく、何を言ってもいいという環境作りとあわせて、家族と本人の関係修復や維持という点にも気を配っていくことを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員と共に介護業務に入り、介護現場の把握に努めている。また職員間での報告、連絡、相談のための申し送りノートを常時活用しており、反映させている。	毎日の朝礼・申し送りを含めて、普段から、何でも気がついたことを言い合っており、気兼ねなく言い合える、その関係性が出来上がっている。現在は、職員不足・職員募集中でもあり、とりわけ休暇取得が課題となっており、協議を重ねあっている。	職員不足は長期化しており深刻な状況にあるが、そのなかで現在いる職員の協力関係や信頼感を大きく養える時期ともいえる。希望や夢を中心に抱いたコミュニケーションを重ね、様々なことを助け合える絆を深めていってほしい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務割の作成時に休日希望を全職員に尋ね、可能な限り休日としている。事業所行事などは職員主導でおこない管理者からのトップダウンは極力控えるように工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修として勉強会を開催している。基本的な意識やコミュニケーション技術などは働きながらトレーニングしていくこととし、自己トレーニングを促すため段階的に仕事量を増やすなど工夫している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に入会しており、管理者は交流等おこなっている。また同系列のグループホームが市内と隣接町内にあり情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から可能な限り面談する機会を設け、困っていること、不安なこと、求めていることの把握と受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様、入居前から可能な限り面談する機会や電話連絡の機会を設け、困っていること、不安なこと、求めていることの把握と受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅ケアマネージャーを介しての入居申請が多く、各々の御事情から他サービスよりグループホーム入居が適している状態と判断され、申請時にお話いただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事は利用者様と共に摂る。日々の業務の中で常に談話する機会がある。茶碗拭き、洗濯干し・たたみなど利用者様が主体の家事がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	医療機関への受診援助を御家族様にさせていただき利用者様が居り、通院後に共に外食をされたりすることが生活の楽しみとなっている。また定期的に兄弟宅に外出する利用者様も居り状況報告を先方からもいただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望がある場合は地域の敬老会に利用者様の出席を支援している。昔からの馴染みの美容院に出かける利用者様も居る。利用者様の親戚や友人等の面会や外出も自由に受け入れている。	前の住居が事業所近隣の方は知り合いが訪ねてくることも日常的にある。毎年参加していた地域の敬老会は、利用者の意向により今年度は参加しておらず、大半の馴染み関係は家族との外出が主となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	談話をしやすい環境づくりを進めていく中で利用者様間の自発的な関わり合いや支え合いが職員も交えて日常になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援に努めていく。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	信頼関係の構築の中で希望、意向の把握は常時行ない事業所の日々のレクリエーションや行事に生かされている。	認知症はあっても全員が意思疎通ができることから、思いや意向は利用者の気分の良いとき(入浴時)などに聞き取り、記録・共有しあっている。決して無理強いはいはしないことを申し合わせ、徹底を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時は御家族様や市町村、使用サービス事業所から情報収集をしている。入居後も継続して情報収集し、失礼にならないよう友人等からも日常会話の中で生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	信頼関係の構築の中で継続的に把握に努め支援に活かされている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族様へは郵送で計画内容素案を提示し、意見を記入しやすい体制をつくっている。	計画作成担当者が、毎日の介護支援経過や普段の申し送りなどを参考にしながら、6ヶ月ごとにモニタリングを行い、評価見直し・プラン作成に当たっている。プラン案について、可能な限り、職員から意見を聞き、家族等に示したうえ、成案としている。	ケアプラン作成の際には、理念とも連動させながら、利用者にとって適切なプランを考えるなど理念とすり合わせてのケアプラン検討・共有化を、職員体制の回復と共に徐々に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤職員で個別記録を毎日記入する。それと併用し申し送りノートも活用し情報共有と考察に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族様が遠方に居られる場合や様々な都合に応じて、行政への申請代行や保険証関係書類の送付先変更など対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア団体として複数の団体から踊りや歌の訪問をいただいております。そこで知人に再会したりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの、かかりつけ医の利用を基本としている。定期受診以外でも各々の医療機関には相談ののっていただいている。	かかりつけ医の変更はなく希望する医師となっている。普段の通院は、家族同行が可能な利用者を除いて、職員が同行している。普段から、歯科の訪問治療に加えて医師の訪問診療も実施されるなど、円滑な連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護職はいない。かかりつけ医院では、看護師に各々の利用者のケアについて助言をいただくことがある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は頻りに医療機関に出向いている。看護師等病院関係者と頻りに情報交換をし、関係づくりに繋がっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要が生じた場合は主治医との相談の上、事業所のハード・ソフト面で可能なケアを検討する。	重度化や終末期への対応方針については、利用者が常時医療的管理が必要になるまで（看取りの対応はない）は、事業所に対応する旨、家族等に説明して了解を得ている。必要の際には最善の方法について家族等と一緒に考えることとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、普通救命講習を受講している者が多い。救急車の要請なども実践した職員は流れを把握し次に繋げている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的実施している。訓練時は地域の住民に参加いただく他、地域の自主防災会より災害時の応援承諾を得ている。	年2回の総合訓練（春は、職員による夜間想定訓練、秋は地域・自主防災組織との合同訓練）や職員の消火訓練などを行っている。火災等いざというときには、地域の自主防災組織の皆さんには、避難誘導で協力いただくことで、了解を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が自らの個性と向き合い、照らし合わせて考えていくことで、利用者様の個性の尊重を根付かせ冷静な対応を目指していく。	起きてから寝るまで、それぞれの思いで過ごされることを基本にしている。一人で居たい人には、その場所を確保したり、それぞれの居心地の良い環境づくりに意を用いている。トイレ誘導は、直接的な言葉かけ(トイレ等)を避ける等注意しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が意見、不満、苦情を表出できるよう信頼関係の構築、また、その雰囲気づくりを最優先に取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活に細かな時間割はなく、その日の希望に沿って職員が援助対応できるような体制をとっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室へ出かけていた利用者様もおり、ご本人の希望に沿って支援している。おしゃれも職員と楽しく話し楽しんでる利用者様がいらっしゃる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事後の茶碗拭きは利用者様の日課になっている。調理も希望される場合や職員から依頼して一緒に行なうことがある。	法人本部栄養士作成の献立を基本にししながら、利用者のリクエスト、在庫などを勘案、不足は買い物をするなどして、食事を作っている。皮むきや刻むなど下ごしらえ、下膳、食器の洗い拭き、テーブル清掃など皆さんで賑やかにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各々が水分を充分取れる工夫をおこなっている。栄養バランスは栄養士作成の献立を参考にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアに誘導が必要な利用者様への誘導や支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表、生活状況の観察からパターンを把握している。	利用者にオムツ使用の方ではなく、日中は、声かけ誘導を含めて、皆さんがトイレでの排泄を行なっているが、夜間は念のためポータブルトイレを置く方もいる。リズム把握と誘導、下剤調節等により、自立性が向上してきた方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤だけに頼らず、水分補給や日々の体操に力を入れている。市販の食物繊維パウダーを料理に加えて工夫もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は暫定の予定者は組むが希望や各自の御予定によって柔軟に変更可能にしており、入浴順番も含め利用者様の希望に添えるよう努めている。	入浴を拒否する利用者はなく、概ね、週に2回を目安にしなが、利用者の体調や気分も考え合わせ、清潔保持に努めている。入浴剤を使ったり、1人でのおんぴり入ったり、歌を口ずさんだり、職員と長々と談笑したりして、それぞれに楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全室個室にて落ち着いて就寝できる環境である。日中も滞在場所が居室や和室、ホールなど各々で個々に合わせた場所にて休息されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方時は処方説明書を全職員が閲覧しやすい場所に備えている。副作用の心配が大きい薬に対しては説明と注意を管理者から指示する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみを行う際、リーダーシップをとる者や助言を受けながら取り組む者など分担が自発的におこなわれている。他にも職員が其々の個性を把握し楽しみごとの提供に工夫を凝らしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	生活に細かな時間割はなく、その日の希望に沿って職員が援助対応できるような体制をとっている。その中には戸外への散歩やドライブも含められている。事業所行事では中距離のドライブも実施している。	以前は天候や気分にあわせながら不意の外出も出来ていたが、現在は職員体制から困難な状況にある。大型ショッピングセンターでの買い物や家族との定期受診にあわせた外食などで、気分転換を図っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用差様の執着や能力に応じて現金所持されている利用者様もいらっしゃる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様への電話を希望される利用者様の希望に沿って支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	強すぎる照明を当てない、天井を高くする、大きな窓を設置する、風の通りを良くするといった工夫の他に、キッチンからの御飯が炊ける匂いがすぐ届くようにといった工夫をしている。	天窓などからは、太陽の光が差し込む中、室内からは、遠くの山や公園などの景色が目を楽ませしてくれる。壁には、四季折々(手づくりの紙の桜花)のものを作って飾り、季節を感じあっている。清掃も毎日行なわれ、トイレ臭などの異臭もない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室や窓辺のスペースなど居室以外でも個々に過ごせる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約前の居室には中型のダンスとカーテンのみの設置としており、ベッドなど好みのもので持込ただけのようにしている。	普段の生活に必要な最小限のもの(着替え、置時計、鏡、カレンダー、家族写真など)を、備え付けのダンスの上に置いたり、壁に飾っている。室内は整理整頓され、普段から掃除も徹底されており、清潔な環境の中、思い思いの生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台には車椅子利用者でも届きやすい高さになっている箇所がある。廊下やトイレには手すりや立位バーが設置されている。浴槽には着脱可能な立位バーや補助椅子がある。		